

葉月「こんにちはぁ…ささやき洗体リフレにようこそお…施術を担当させていただく…私、葉月と申します。今日はよろしくおねがいします」

美冬「葉月と一緒に…施術をいたします私は…美冬と申します。まずは…葉月さんのサポートを…いたしますわ…」

葉月「ウフフ…その紙パンツ姿よくお似合いですの…ご立派な殿方には…恥ずかしいパンツですけども…あら…殿方の大事なモノが…チラチラとお見えになってしまっていますわ…うふふっ…」

美冬「それに…ちょっと膨張して…しまっているようですねえ…施術中は…ふしだらなことを考えないのがぁ…殿方のマナーですの…」

葉月「それではぁっ…んん～っ…それでは…この寝台にい…うつ伏せになってくださいまし…まずはフットマッサージからさせていただきますわ…」

美冬「ふう～っ…はぁ～っ…私は…葉月さんが施術している間…こうやってえ…お耳からぁ…お体を温めていきますねえ…ふう～っ…はぁ～っ…これを…アロマだと思ってくださいねえ…」

葉月「んふう～っ…はぁ～っ…まずはぁ…足の指先を…ほぐしていきますね…んふ～っ…んん～っ…指の先から…力が抜けて…いただけておりますか…？」

美冬「んんっ…それでは…施術開始ですう…んん～っ…リラックス、リラックスです…はぁ～っ…んふう～っ」

葉月「んはぁっ…それでは親指から…失礼いたします…ふう～っ…んん～っ…れろお～っ…まずは親指…ちゅっ…れろお～っ…んちゅっ…親指レロレロです…んふう～っ…」

美冬「んはぁ～～っ…ふう～～っ…びっくりしちゃいましたか…?…はぁ～～んっ…こうやって…お口でマッサージを…させていただいておりますの…んはぁ～～っ…暖かい葉月さんのお口の中で…ふう～～っ…絡みつくベロが…貴方様と心と体を…ほぐしていきますの…」

葉月「んはぁっ…お次はぁ…二本同時に…マッサージいたしますねえ…あ～～んっ……お口の中でえ…柔らかくなってくださいまし…んはぁ～～っ…れろお～～っ…ちゅっ…」

美冬「んはぁ～～っ…葉月さんったら…小さなお口で…二本いっぺんにくわえて…しまっておりますの…んふう～～っ…うつ伏せになって…いらっしゃるので……よくは…お見えになれないでしょうけどお…んはぁ～～っ…とっても…はしたないお口に…なっておりますわ…」

葉月「れろれろれろ～～んっ…はぁ～～んっ…はしたなくてもお…殿方のためにい…お尽くするのがぁ…私たちの…務めですの…んふう～～っ…そうすれば…ほらぁ…こうやって…ほぐれてきておりますの…んはぁっ…足の指を…んはぁ～～っ…もっと柔らかくして…差し上げます…」

美冬「そうですわ…んんっ…これからも…施術中はぁ…とってもはしたない…お姿をお見せして…お目汚しにしなるかもしれませんが…はぁ～～っ…これもすべては…殿方のため…貴方様のためでございます…」

葉月「んん～～っ…れろお～～っ…小指の先まで…全部ほぐしていきますわ…れろお～～っ…んん～～っ…指の付け根まで…失礼いたしますねえ…ん～～っ…ちゅっ…れろお～～っ…れろお～っ…それにい…んはぁ～～っ…殿方の足の指…んはぁ～～っ…おいしいですの…んはぁ～～っ…れろれろおっ～～っ…おいしくて…ずっとおしゃぶりして…いられますわ…んはぁ～～っ…」

美冬「あらあら…おいしいなんて…役得ですわねえ…んはぁ～～っ…ふう～～っ…でもお…まだまだこれからですわよねえ……んふう～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…では…えろお～～っ…足の裏を…柔らかくしながら…んはぁ…私の体を使ってえ…ふくらはぎのあたりを…ほぐさせていただきますね…れろお～～んっ…ん～～っ…んん～っ…んはぁ～～っ私の全身マッサージ…よ～く味わってくださいねえ…んはぁ～～っ…」

美冬「はぁ～～っ…んんん～～っ…ふう～～っ…うふふっ…もっといやらしいポーズでえ…マッサージしていますねえ…んふう～～っ…うつ伏せでは…よくお見えにならないのが…残念ですけど…んはぁ～っ…はぁ～～っ…」

葉月「ふう～～っ…はぁ～～っ…それにい…んはぁ～っ…それにい…足の裏のお…硬くなってるところを…柔らかくお舐めさしあげますの…んん～～れろお～っ……貴方様の太ももを…私の太ももではさんでえ…同時に…マッサージしますのお…んはぁ～～っ…私の体ぁ…感じてくださいまし…」

美冬「れろお～～っ…葉月さんの…おまたに挟まれてるからと言って…はぁ～～っ…ご自分のお足を…股間に…こすりつけるような…無粋な真似は…いけませんよお…んはぁ～～っ…れろお～～っ…あくまで…マッサージですのでえ…」

葉月「んはぁ～～っ…無粋な真似は…いけませんけど…こうやって…殿方にい…体を預けるようにしてえ…足のお疲れを…取っていくのはぁ…とても幸せを感じますの…れろお～～っ…それにい…こういうことでえ…リラックスできるのであればぁ…私の方から…少し押し付けて…差し上げますの…んはぁ～～っ…ほらぁ…ふとももからぁ…ふくらはぎ…柔らかくなってくださいねえ…」

美冬「ふう～～っ…んはぁっ～～葉月さんの…ふくよかな胸が…お足に当たっているの…お分かりですよ…んはぁっ…んもうっ…おっぱいを…意識しすぎないでくださいね…もっとリラックスしてくださいっ…んふう～～っ…れろお～～っ…」

葉月「れろお～～っ…まったく、いやらしい…殿方ですこと…んん～～っ…はぁ～～んっ…でもお…私のお…胸の谷間マッサージ…もっと味わってくださいねえ…んふう～っ…はぁっ…それに…貴方様のお鼻の…お近くにある…ふう～～っ…秘部の空気もお…感じてくださいねえ…」

美冬「ふう～～っ…葉月さんの胸のふくらみ…いかがですかぁ？んふう～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…こうやって…足の裏ぁ…はぁ…ふくらはぎから…太ももまで…ズリズリって…んふうっ…れろぉ～～っ…はぁ～～っ…私の本気の…マッサージ…感じてくださいねぇ…」

美冬「ふう～～っ…マッサージ中にい…耳元を…こそばゆ～くしてあげるのも…んはぁ～っ…私のお役目ですのぉ…ふう～～っ…ふう～～っ…」

葉月「れろぉ～～っ…はぁ～～っ…んん～～っ…耳元も…おみ足もぉ…リラックスしていращやる…殿方のお顔を…拝見するのも…んはぁ～～っ…このお仕事の…醍醐味ですの…もっとお…リラックスしてくださいねぇ…んん～～っ…はぁ～～っ…れろぉ～～っ…」

美冬「うふふっ…んふっ～～っ…はぁ～～っ…んはぁ～～っ…このまま…お休みしてもいいんですよ…れろぉ～～っ…はぁ～～っ…んはぁ～～っ…」

葉月「ふう～～っ…私の…胸とお…太ももでえ…殿方の足がぁ…んはぁ～～っ…ほぐれてますの…れろぉ～～っ…これでだいぶ…足のお疲れもぉ…んはぁ～～っ…取れてきたと思いますの…んはぁ～～っ…おつかれさまでした…んふう～～っ…」

美冬「んふう～～っ…お足の方は…だいぶほぐれてきたみたいですねえ…それではぁ…お次にい…この美冬が…美琴さんに代わりましてえ…マッサージを…させていただきますわ…」

葉月「ふう～～っ…お次は…足の付け根からお尻のあたり、お腰までです…はぁ～～っ…ふう～～っ…それではぁ…私が美冬さんのサポートをいたしますねえ…んん～～っ…はぁっ…」

美冬「ふう～～っ…まだ…うつ伏せのままで…いらしてくださいね…はぁ～～っ…私が…紙のパンツを…するっと…降ろさせていただきます…んんっ…んふうっ…はぁっ…全部を…おろすわけでは…ありませんから…安心してくださいねぇ…んはぁ～～っ…ふう～～っ…」

葉月「ふう～～っ…恥ずかしがらないで…大丈夫ですよお…はぁ～～っ…んん～～っ…ちゃんと…
大事な個所はぁ…お隠れになっておりますから…んはぁ～～っ…ふう～～っ…」

美冬「ゆっくりとお…足の付け根から…お尻まで…柔らかく…していきます…んん～～っ…はぁ～
～っ…円を描くように…んふう～～っ…こうやって…んん～～っ…お尻のお肉を…ほぐしていきます
ね…はぁ～～っ…いかがですか…？」

葉月「ふう～～っ…んん～～っ…私の…吐息も…味わってくださいねえ…んん～～っ…はぁ～っ…
れろお～～っ…」

美冬「んん～～っ…んはぁ～～っ…こちらも…とても…こわばっていますね…いつも…お疲れみた
いで…ご苦労様です…んん～～っ…はぁ～～っ…こんなにこわばってしまうほど…はぁ～～っ…頑
張っていらっしゃる…殿方にい…れろお～っ…私が…誠心誠意…ご奉仕…いたします」

葉月「んふう～～っ…私もお…貴方様のためでしたら…苦労は厭いませんわ…んはぁ～～っ…れ
ろれろお～～っ…んふう～～っ…」

美冬「んはぁ～～っ…こわばっている…お尻のあたり…んはぁ～～っ…ちょっと痛いかもしれません
が…はぁっ…すこしの間…はぁんっ…我慢してくださいませ…はぁ～～っ…んん～～っ…んん～～っ
…んはぁ～～っ…んんんっ…んふう～～っ…はぁ～～っ…うんしょっ…んはぁ～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…硬い筋肉を…ほぐされている間はぁ…この葉月が…とっても熱～～い…吐
息と…レロレロでえ…ご奉仕しますねえ…んはぁ～～っ…んふう～～っ…れろれろお～～んっ…んは
ぁぁ～～」

美冬「はぁ～～っ…張っていた足の付け根も…んふう～～っ…少しずつ…ほぐされてきましたわ…
んんんっ～～っ…これで…また…明日から…んふう～～っ…おがんばりにい…なれますわ～～っ…
んはぁ～～っ…よいしょっ…よいしょっ…んはぁ～～っ…んん～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…明日への…活力になっていただくのが…私たちの幸せです…んはぁ～～っ…れろお～～っ…んん～～っ…ふう～～っ…」

美冬「はぁ～～っ…どんどん…ほぐれてまいりましたね…うふっ…うれしいですわ…ふう～～」

葉月「ふう～～っ…足のお疲れ…だいぶ…楽になられたようで…れろお～～っ…ふ～～っ…」

美冬「それでは…ふう～～っ…腰の方にまで…手を回して…ほぐしていきますね…んはぁ～～っ…ふう～～っ…」

葉月「れろお～～っ…ふう～～っ…本当に…お疲れみたいですわ…んふう～～っ…はぁ～～っ…」

美冬「私、おつかれの殿方のお体を見ると…一生懸命、頑張っていらっしゃる…殿方のお姿を想像して…はぁ～～っ…とってもかわいらしく…思えてしまうんですの…うふふっ…ふう～～っ…んふう～～っ…私たちは…頑張ってる人を…癒して差し上げるのが…役目ですから…んふう～～っ…れろお～～っ…」

葉月「ふう～～っ…ですけど…私は…頑張りすぎない人も…好きですの…ん～～っ…ふう～～っ…そういう人は…気持ちが…優しくて…ふう～～っ…はぁ～～っ…れろお～～っ…」

美冬「うふふっ…そうですね…んはぁ～～っ…貴方様は…どちらのタイプですか…?んふっ～～っ…こうやって…お体をほぐしていくと…なんとなくですけど…相手のことが…少しわかるようになってくるんです…んはぁ～～っ…れろおっ～～っ…」

葉月「ふう～～っ…貴方様は…きっと優しい人…んはぁ～～っ…れろおっ…でもその分、気苦労も多そうですね…んはぁ～～っ…んふう～～っ…」

美冬「どうですか…当たりますか…私たちの予想…?ふう〜〜っ…こうやって…お話ししていると…マッサージのお時間も…無くなってしまいますね…うふふっ…んはぁ〜〜っ…もちろん、お話し中も…手を抜いたりはしませんから…んはぁ〜〜っ…安心して下さいね…れろお〜〜っ…んはぁ〜〜っ…」

葉月「んふう〜〜っ…はぁ〜〜っ…こうやって…おしゃべりすることで…んはぁ〜〜っ…ふう〜〜っ…心が安らいでいただけるのでしたら…うれしいのですけれど…んはぁ〜〜っ」

美冬「はぁ〜〜っ…んふう〜〜っ…ほらぁ…そろそろ…お腰の周りも…少しずつ…ほぐれてきましたわ…んはぁ〜〜っ…でもお……ふう〜〜っ…まだまだ…ほぐしが必要のようですので…もう少しだけ…お付き合いくださいね…ふう〜〜っ…れろお〜〜っ…」

葉月「ふう〜〜っ…やわらか〜く…やわらか〜くなあれ…ふう〜〜っ…少しおまじないです…れろお〜〜っ…」

美冬「ふう〜〜っ…私も…おまじない、しちゃいましょうかね…ふう〜〜っ…柔らかく…やわらかくな〜れ…ふう〜〜っ…ふう〜〜っ…マッサージしているのに…おまじないに頼るなんて…変ですよ…んはぁ〜〜っ…れろお〜〜っ…んふう〜〜っ…はぁ〜〜っ…」

葉月「うふふっ…そういうのも…はぁ〜〜っ…いいんじゃないでしょうか…れろお〜〜っ…んはぁ〜〜っ…おまじないのあとは…仕上げに吐息と…舌先で…責めちゃいますねえ…れろお〜〜っ…んふう〜〜っ…はぁ〜〜っ…ふう〜〜っ」

美冬「んはぁ〜〜っ…行きますわ…んん〜〜っ…れろれろお〜〜っ…ほらぁ…腰のあたりが…あったか〜く、なってきたでしょう…んはっぁ〜〜っ…ぽかぽかっ…ふう〜〜っ…れろお〜〜っ…んはぁ〜〜っ…こうやって…血液のめぐりが…よくなって…ふう〜〜っ…腰の周りが…すっきりとしてきましたか…?」

葉月「はぁ～～っ…ふう～～っ…はぁ～～っ…れろお～～っ…腰の疲れも…取れてきましたか…？
はぁ～～っ…ふう～～っ…」

美冬「ふう～～っ…もう…これで…下半身は…ほぐされました…だいぶ余計な力が抜けて…スッキリしていただけたと…思いますの…はぁ～～っ…これで…マッサージの前半は終了ですの…でもちょっと…脱力感があると思いますの…んはぁ～～っ…この脱力感のまま…次のマッサージをさせて頂きますね…」

葉月「では…んふう～～っ…これから…次のマッサージを選んでくださいね…ふう～～っ…このまま背中や…お肩をほぐすマッサージをお選びになるか……はぁ～～っ…ふう～～っ…れろお～～っ…んふう～～っ」

美冬「んはぁ～～っ…それともお…下半身を…徹底的にい…すっきりなさる…ハードサービスに…いたしますか…？…ふう～～っ…はぁ～～っ…れろお～～っ…」

葉月「(ここはエッチな感じで)ふう～～っ…れろお～～っ…お好きな方を…お選びくださいね～っ」